心理実践実習Ⅳ(医療臨床心理実習Ⅱ)

選択　　2単位

大塚　秀実・森脇　愛子・石田　　航・
尹　　成秀・藤尾　未由希

1. 授業の概要（ねらい）

この授業は、医療臨床心理実習Ⅰを踏まえ、大学院生各々が医療機関においてさらに心理実習を積むことによって、医療機関における心のケアの現状を学ぶとともに、公認心理師および臨床心理士の活動の実際や課題を学ぶことを目的とする。とくに医療における心理療法や心理検査の有効な用い方、ソーシャルスキルトレーニングや集団療法をはじめとするグループ活動、また多職種との連携の在り方など、公認心理師および臨床心理士が身につけるべき知識を体験的に学ぶ。

本学大学院文学研究科臨床心理学専攻が契約する医療機関において、外来や病棟、デイケアに参加し、精神科や他科の機能や役割、医療機関における精神科医療機関の機能や役割、多職種スタッフによるチーム医療、他職種連携と地域連携、患者とのコミュニケーション、精神科医療等への患者のニーズ、心理職（公認心理師や臨床心理士を含む）としての職業倫理及び法的義務等を学ぶ。また心理職の実際の活動に陪席することを通し、医療機関における心理職の機能と役割について学ぶ。さらに実際にケースを担当し、アセスメントを行い、支援計画を立案し、その計画に基づきかかわり、その結果について評価検討を行うことを通して、心理職としての知識と技能を実践的に学修する。

医療機関の実習先は、履修者ごとに設定される。履修者は、実習前準備教育を充分に行った後に、実習先の心理実習指導者から指導を受けながら、実践現場にチーム医療の一員として参加する。担当ケースについては、実際にかかわる患者さんの中から担当ケースを定め、病棟やデイケアなどの集団場面を中心にチームの一員としてかかわり、あらかじめ指導を受けて設定した支援計画の実施と評価を行う。それらの結果を担当教員と共に考察し学びを深める。なお、実習先との調整により、学期期間外の実習・指導等が設定されることがある。実習5日のうち1回は教員が巡回し実地での指導を行う。実習時は、毎回ノートを教員に提出して指導を受けることとなる。修士2年次に選択する科目である。

また履修者は、事例検討会において担当ケースを発表し、さまざまな立場からの心理アセスメントのあり方について学修することもある。

2. 授業の到達目標

1）医療における個人・集団心理療法や心理検査を知ること
2）多職種連携やチーム医療の実際を学び理解すること
3）公認心理師および臨床心理士の役割を体験的に学ぶこと

3. 成績評価の方法および基準

事前・最終レポート30%、実習（実習参加度・実習ノート提出・実習ノート内容）50%、振り返り10%、実習先からの評価10%

4. 教科書・参考文献

教科書
津川律子・江口昌克・野島一彦　保健医療分野: 理論と支援の展開 (公認心理師分野別テキスト1)　創元社
参考文献
野村れいか編　病院で働く心理職―現場から伝えたいこと―　日本評論社
矢永由里子　心理臨床実践：身体化医療を中心とした心理職のためのガイドブック　誠信書房
津川律子・篠竹利和編　シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査　誠信書房

5. 準備学修の内容

上記テキストを熟読すること

6. その他履修上の注意事項

実習先の医療機関においては、医療倫理を守り、指導者に従うことが必須である。
また本科目は心理実践実習Ⅰ（医療臨床心理実習Ⅰ）を基礎とした、現場での応用であることに留意すること。

この科目は臨床心理学専攻に特化した科目です。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス：医療臨床の実際について
【第2回】　現場における実習①
【第3回】　現場における実習②
【第4回】　現場における実習③
【第5回】　現場における実習④
【第6回】　現場における実習⑤
【第7回】　現場における実習⑥
【第8回】　現場における実習⑦
【第9回】　現場における実習⑧
【第10回】　現場における実習⑨
【第11回】　現場における実習⑩
【第12回】　現場における実習⑪
【第13回】　現場における実習⑫
【第14回】　現場における実習⑬
【第15回】　実習振りかえりとまとめ